

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名 山形県

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

(1) 生産コスト又は集出荷・加工コストの10%以上の削減

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標		現状			目標			実績			スマート農業推進枠 導入・定着の取組 の実施内容	事後評価の検証方法 （※定量的な検証が できること。）	達成率 （%）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	評価	
					年度	削減率	年度	面積 単位	生産量、出荷量 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量 又は処理量 単位	年度	面積 単位	生産量、出荷量 又は処理量 単位							
																						R1
舟形町農 業再生協 議会	14	福寿野、 富田2	水稲	①既存乾燥調整施設及び今回導入する機械を共同 利用することにより、機械経費等の削減を図る。 ②肥料等の資材を一括購入に切り替えるなどして 資材費の削減を図る。 ③農地中間管理事業を活用し、農地の集積に取り 組み、効率的作業体系を確立して生産コストの削 減を図る。	生産コスト の6%以上 削減 【6.1% 削減】	R1	118,984円/10a	13.9 ha	84.7 t	R4	111,680円 /10a	15.3 ha	91.1 t	R4	91,267円 /10a	16.1 ha	80.0 t	379.5%	基礎整備の開始や肥料価格等の高騰があったが、作業委託面積の拡大やコスト削減に取り組んだため、目標を達成することができている。引き続きコスト削減に取り組んでいくよう指導していく。	農業資材高騰の中でも、作業委託面積の拡大やコスト削減により目標を達成した。引き続き経営安定に向け指導していく。	R5評価	
舟形町農 業再生協 議会	15	紫山	水稲	①法人経営により機械経費等の削減を図る。 ②肥料等の資材を一括購入に切り替えるなどして 資材費の削減を図る。 ③農地中間管理事業を活用し、農地の集積に取り 組み、効率的作業体系を確立して生産コストの削 減を図る。	生産コスト の6%以上 削減 【6.1% 削減】	R1	114,093円/10a	12.7 ha	67.8 t	R4	107,133円 /10a	15.0 ha	80.0 t	R4	105,933円 /10a	16.2 ha	90.1 t	117.2%	水稲生産コストを栽培面積で除した10a当たりの金額について、R1年度とR4年度を比較し、6%以上削減しているか確認する。決算報告書、営農計画書、農作業委託契約書等により生産コストの削減を検証する。	栽培面積の拡大が順調であり、肥料費が高騰する状況の中において肥料費の上昇を最小限抑えられたことが目標達成につながったと思われる。今後は、さらなるコスト削減について取り組むよう指導していく。	農業資材高騰の中でも、規模拡大やコスト削減により目標を達成した。引き続き経営安定に向け指導していく。	R5評価
高崎町農 業再生協 議会	4	小真塚等	主食用水 稲	既存の乾燥調整施設に主食用米の精米施設（補助対 象）と冷蔵施設（補助対象外）を増設、フレコン バッグでの集出荷への切替、直接販売米の保管の 自動化、主食用水稲の収穫後の作業の一連化、規 模拡大	集出荷・加 工コストの 削減（29.2% 削減）	H 30	4,879円/10a	28.8 ha	122,310 kg	R4	3,455円/10a	35.0 ha	206,400 kg	R4	1,999円/10a	40.5 ha	195,770 kg	202.2%	主食用水稲の加工から出荷までに掛かる経費及び総額定元値により確認し、検証をする。また、必要に応じ、各経費の広票等を確認する。	当該施設は順調に稼働しており、施設建設に伴いコスト削減が図られた。	施設の整備により、米の集出荷にかかるコストが目標以上に低減されている。主食用水稲栽培面積も目標以上に拡大するなど、地域の中心経営体として順調に規模拡大が図られている。	R5評価
鶴岡市農 業振興協 議会	13	藤島	水稲	・高性能機械（トラクタ、ハロー）のリース導入 により作業効率を高めて10a当たり労働時間を削減 する ・直播面積の拡大により生産コストを削減する	生産コスト 10%以上の削 減 【10.1%削 減】	R1	98,545円/10a	44.78 ha	281,654 kg	R4	88,543円 /10a	45.0 ha	272,250 kg	R4	102,410円 /10a	51.23 ha	175,800 kg	-38.6%	決算報告書及び作業日誌等の関係資料による。	人件費等の生産コスト削減（目標値-2,312円/10a）は効果が見られたが、農薬や肥料などの高騰（目標値+4,359円/10a）により経費削減に至らなかった。また、コスト削減に向けて導入している直播栽培で単収が低下（平均518kg/10aに対し直は単収428kg/10a）し生産量が目標値に満たなかった。 肥料農薬の一括購入による購入費の削減や田植同時処理除草剤を導入し適期処理することによる追加防除の削減により生産コスト削減の目標の達成をめざす。また、稲作講習会等への参加を促し直播栽培の収量向上を目指す。	機械のリース導入により作業効率上がり、面積は目標値を上回り、人件費は削減（現況値-4,881円/10a）されたが、農薬や肥料などの高騰（現況値+3,167円/10a）により生産コスト削減の目標は未達となった。また、コスト削減のため導入した直播栽培で単収が低下し、生産量の目標は未達となった。 生産コスト削減に向けて、ブロックローテーション実施による復田時の施肥量削減や田植同時処理除草剤を導入し適期処理による追加防除の削減により生産コスト削減の目標の達成をめざす。また、稲作講習会等への参加を促し直播栽培の収量向上を目指す。	R5評価
鶴岡市農 業振興協 議会	15	朝日	水稲	・高性能機械（コンバイン、トラクタ）のリース 導入により作業効率を高めて10a当たり労働時間を 削減する ・肥料や農薬を安価なものに切り替え、物財費を 削減する ・農地の賃借等による農地集積と規模拡大を行う	生産コスト 10%以上の削 減 【10.1%削 減】	R1	142,938円/10a	29.22 ha	171,726 kg	R4	128,565円 /10a	32.8 ha	185,648 kg	R4	141,322円 /10a	31.32 ha	175,530 kg	11.2%	決算報告書及び作業日誌等の関係資料による。	肥料・農薬の高騰（目標値+2,408円/10a）に加え、高齢化に伴う雇用（目標値+1,909円/10a）や限られた作業期間へ対応するための共同利用機械の確保（本法人においては、既存トラクタ複数台で作業を行っていたものの、その多くが老朽化のため能力が不足する事態に陥り、急遽法人内の構成よりトラクタを賃借する必要が生じたため、トラクタを事業でリース導入した台数以上に機械賃借が必要となった）及び前年度分の賃借料をまとめた2年分の賃借料を計上したことによる賃借料の増加（目標値+6,870円/10a、）などが要因でコスト削減が目標に届かなかった。 肥料・農薬等資材の一括購入による資材費の削減や、効率的な作業体系を検討し機械賃借料の削減等、目標達成に向け更なる生産コストの削減に努めるよう指導した。なお、賃借料の計上については次年度から単年度分となるため、半減する見込みである。	コンバイン、トラクタのリース導入により作業効率が高まり一定の面積拡大は図られたものの、生産資材の高騰（現況値+1,793円/10a）や燃料の高騰（現況値+742円/10a）や高齢化に伴う新たな雇用（現況値+1,989円/10a）補助事業による機械リース導入により削減予定だった既存機械台数が、老朽化により作業効率が悪く低下し想定通り稼働できなかったことにより、機械賃借の継続及び吸収処理の関係で前年度分を含めた2年分の賃借料を計上したことなどが要因で生産コスト削減目標未達となった。 肥料・農薬等資材の一括購入による資材費の削減や、効率的な作業体系検討による機械作業時間の縮減とともに、老朽化した機械の賃借単価の見直しによる賃借料の削減を指導し、生産コスト削減目標達成を目指す。	R5評価

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	協議番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																スマート農業推進枠 導入・定着の取組 の実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		修正係 数	価格補 正後の 実績	事後評価の検証方 法(※定量的な核 心となること)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	評価
					現状				目標				実績				前年度	目標年度												
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位			生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位		生産コスト 単位								
東播磨農業再生協議会	4	東播磨 小田島	水稲	兼用田植機、あぜ塗り機、色彩選別機、トランクターの導入により品質や生産性の向上を旨とする。担い手への農地集積や集約化を図りながら作業効率の向上を目指す。	販売額の10%以上の増加 【16.3%の増加】	R1	8.6万円/10a	57.2 ha	259,759 kg	11,371 円/俵	R4	10.0万円/10a	83.5 ha	433,094 kg	11,608 円/俵	R4	はえぬき 8.16万円/10a はえぬき 52.80 はえぬき 239.954 はえぬき 9.938 はえぬき 9.938 つや姫 9.19万円/10a つや姫 12.01 つや姫 51.264 つや姫 13.883 合計 8.36万円/10a 合計 65.71 合計 311.218 合計 10.588	はえぬき 15,407 つや姫 18,347	はえぬき 13,000 つや姫 18,521	はえぬき 1.184 つや姫 0.991	はえぬき 9.66万円/10a つや姫 9.11万円/10a 合計 9.55万円/10a	決算書又は申告書 に用いる各種書類の精算により算出する。	67.9%		R5評価	6～8月にかけての気温・日照不足により、収穫が想定より低かったことと(自播種にして45.1kg/10a)、農地が分散してより農地集約が進まなかったことから、生産量・販売額が伸びず、販売額の目標未達となった。従前の育成や土壌分析結果をもとに、バランスのとれた土づくりや施肥肥料の改良を行う等の農家活動に強い結びつきや、販路の開拓や販路確保の取組等により目標の達成を目指す。				
西川町農業再生協議会	1	西川町 海味、西川	落花生	機械の導入、畑地化の推進及び栽培面積の拡大により、出荷量の増加、品質の向上に取り組み、販売額の増加を図る。	販売額の10%以上の増加 【15.1%の増加】	R1	159千円/10a	24.9 ha	229.5 千本	173 円/本	R4	183千円/10a	34.1 ha	424.9 千本	147 円/本	R4	142千円/10a	34.1 ha	307 千本	158 円/本	314 円/東	339 円/東	0.926	132千円/10a	取組主体の販売実績により検証する。	-112.5%		R5評価	令和2～3年の大雪により枝折れ被害が発生し、出荷量が伸び悩んだ。また、令和2年度の新植面積の大幅な拡大により、令和3年度においても個人消費などの需要不足のため、引き継ぎ拡大した圃場を適正に管理し、目標達成に向け取組を進めようとする。	
大井町地城農業再生協議会	5	三郷	抱脱野菜	ハイハウスを整備し、年間を通した野菜生産を行い、販売額を向上させる。	販売額の10%以上の増加 【6.9%の増加】	R1	合計 303千円/10a 大豆 120千円/10a 納豆 450千円/10a	合計 0.18 大豆 0.08 ha 納豆 0.1	合計 840 kg 大豆 400 kg 納豆 750 kg	合計 650 円/kg 大豆 400 円/kg 納豆 750 円/kg	R4	合計 500千円/10a 納豆 322千円/10a 納豆 600千円/10a 納豆 432千円/10a 納豆 432千円/10a 小松菜 384千円/10a 小松菜 0.019 レタス 405千円/10a	合計 1.725 kg 納豆 504 kg 納豆 716 kg 納豆 480 kg 小松菜 155 kg 小松菜 480 kg レタス 175 kg	合計 521 円/kg 納豆 750 円/kg 小松菜 480 円/kg レタス 750 円/kg	R4	合計 483千円/10a 納豆 18千円/10a 納豆 590千円/10a 納豆 0.11 納豆 1033千円/10a 小松菜 676千円/10a 小松菜 0.01 レタス 0千円/10a	合計 0.18 kg 納豆 0.03 納豆 14 kg 納豆 854 kg 納豆 47 kg 小松菜 313 kg 小松菜 0 レタス 0	合計 1,228 円/kg 納豆 708 円/kg 納豆 825 円/kg 納豆 660 円/kg 小松菜 406 円/kg	合計 457千円/10a 納豆 15千円/10a 納豆 564千円/10a 納豆 867千円/10a 小松菜 628千円/10a レタス 628千円/10a レタス 0千円/10a	申告書及び出荷精算表内訳書等により検証する。	78.2%		R5評価	作物全体の作付面積、販売単価は目標値を上回ったが、育苗期間を短くするための野菜栽培は、必要な土づくりや時間差を考慮し、小松菜やほうれん草栽培に注力したことで、レタス栽培やクサヤの栽培面積拡大により、目標達成できなかった。今後は、トウモロコシを伴わずにレタスの栽培面積を増やす見込み。野菜の品質を考慮し、切り枝収穫作業を適切な時期に行うよう指導する。						
舟形町農業再生協議会	13	舟形町 全域	ねぎ	ねぎ産地の形成の推進 1) 専用ねぎ収穫機を導入することで収穫作業の効率化を図り、栽培規模の拡大と低コスト化を図る。 2) 専用ねぎ収穫機を導入により選別収穫を実現し、高品質・安定供給の定地化を目指す。 3) ベストロボを導入することで、選別作業(根葉切り、反むき作業)の効率化に取り組み、選別出荷の確保と低コスト化を図る。 4) 選別機を導入することで、選別作業の効率化に取り組み、選別出荷の実現と低コスト化を図る。	販売額の10%以上の増加 【10.2%の増加】	R1	936千円/10a	6.09 ha	145 t	400 円/kg	R4	1,031千円/10a	6.44 ha	177 t	375 円/kg	R4	1,077千円/10a	6.48 ha	188 t	371 円/kg	291 円	319 円	0.912	981千円/10a	構成員全員のねぎ販売額の合計値を栽培面積合計で除した10a当たりの金額について、前年度と比較し、10%以上増加しているか確認する。所得税青色申告決算書、産地計画書等により販売額の増加を検証する。	47.4%		R5評価	導入機械の活用によって作業効率が向上し、栽培面積及び収量を増やすことができたことにより面積の目標を達成することができた。地域の単価については、山形市の公設市場の取り単価であるが、以前より当地地のねぎは評価が高く、高単価を確保できていたことと、令和4年度は、天候の影響により収穫病が多く発生したため、品質を確保できず、単価の下落が懸念された。今後は、最上総合支庁農業技術普及課より栽培病を防ぐ方法について指導を受ける。また、JA及び舟形町農業協議所においても広域や標準を徹底し、一律となって品質の確保に努めていく。	

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																スマート農業推進枠 導入・定着の取組 の実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係数	価格補正後の 実績	事後評価の検証方 法(※定量的な核 心ができること)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	評価
					現状				目標				実績				事業年度 前年度	目標年度	前年度	目標年度										
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	単価(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	単価(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位						生産量又は 出荷量 単位	単価(販売単価) 単位							
鯉川村農業再生協議会	4	鯉川村戸沢村	アスパラガス	アスパラガスの作付面積を拡大するとともに、クローラースプレー、予冷凍の導入により作業の省力・効率化、高品質安定出荷を目指すことで、販売単価の向上を図る。	総販売額10%以上の増加【11.9%の増加】	R1	23,141,000 円	5.53 ha	18,221 kg	1,270 円/kg	R4	26,970,000 円	6.73 ha	26,970 kg	1,000 円/kg	R4	24,823,898 円	5.57 ha	20,875 kg	1,189 円/kg	1101 円/kg	1278 円/kg	0.862	21,395 円/kg	1,163 円/kg	もがみ中央農協出荷分の販売単価実績により検証確認する。	-45.6%	計画時には新規に栽培に取り組み予定だった農業者が土壌診断の結果を基に別品目を栽培することとなり、新たな農業者を確保することができず目標が達成できていない。また、産地の高齢化が実の中、各自が異なる産地同士でそれぞれの繁忙期に相互に協力することにより、各品目の繁忙期の労働力不足という課題が多少改善されたが、それとも種どりの機械拡大は難しく、目標達成には至らなかった。農業者同士で意見交換ができる場や栽培研修会について周知をして栽培技術向上のための支援をしていくとともに、高齢化が進んでいるため新規栽培者確保についても支援していく。	R5評価	
長井市農業再生協議会	3	長井市全域	えだめ	①大型機械を導入し圃場あたりの作業時間を減らし効率的な収穫を目指す。 ②おきたま園芸ステーションと協力し高品質・安定出荷を目指す。 ③早生品種から晩成品種まで作付することによりチェーン出荷体制の確立を目指す。	販売額10%以上の増加【33.9%の増加】	R1	180千円/10a	17.17 ha	71,524 kg	433 円/kg	R4	241千円/10a	17.17 ha	68,680 kg	602 円/kg	R4	70千円/10a	21.1 ha	28,151 kg	525 円/kg	613 円/kg	571 円/kg	1.074	75千円/10a	JA出荷による販売単価を確保する。	-172.1%	前年よりも作付け面積が増え、出荷量は半分以上増加した。令和4年8月3日の豪雨による水害被害により、早成品種の収穫が大幅に減少した。また、連作障害による品質低下も発生している。令和5年度は早生品種と晩成品種の両方を出荷できるように品種の導入や栽培体制を構築し、販売単価を向上させよう指導していく。	R5評価		
川西町農業再生協議会	8	小松大塚中郡玉置西島	えだめ	①えだめ収穫機(トラクターアタッチメント方式)、トラクターの導入による過期収穫と機械拡大 ②播種機、フロートキャスターの導入による播種・肥料散布作業の効率化と播種拡大 ③品種構成を見直し収穫期間を分散する事による規模拡大 ④倉庫山の共通施設を活用した選別・出荷による品質の高品質化	販売額の10%以上の増加【9.4%の増加】	R1	83,947 円/10a	45.0 ha	80,065 kg	472 円/kg	R4	163,317 円/10a	95 ha	287,850 kg	539 円/kg	R4	79,499 円/10a	78.0 ha	164,611 kg	377 円/kg	640 円/kg	571 円/kg	1.121	89,189 円/10a	JAおきたまの共同販路で確認する。	6.6%	令和4年8月の豪雨で畑が冠水し、夏の汚染や病害が発生した。出荷の品質低下・出荷量の減少がみられ、販売単価が低くなった。また、コロナ禍による需要と価格の下落が顕著で、早生品種と晩成品種の両方を出荷できるように品種の導入や栽培体制を構築し、販売単価を向上させよう指導していく。	R5評価		
飯豊町農業再生協議会	4	飯豊町萩生	菜地野菜(ブロッコリー)	①省力的な生産体系として野菜定植機を導入することにより出荷量を増加させる。 ②高品質増加、出荷に要する時間を短縮するため販売額の増加を重視し効率化を図る。 ③ブロッコリー専用機により、連作障害の回避をはかる。 ④高品質・安定生産のため、栽培技術の高品質化を目指す。	販売額の10%以上の増加【14.4%の増加】	R1	209千円/10a	1.48 ha	8.8 t	354 円/kg	R4	239千円/10a	2.2 ha	14.7 t	357 円/kg	R4	173千円/10a	4.1 ha	13.8 t	515 円/kg	270 円/kg	286 円/kg	0.944	164千円/10a	①営農計画書及び現地確認により栽培面積の増加を確認する。	-150.0%	機械導入により、作付面積は当初の約2.8倍、販売額も約3倍増え、現在ではブロッコリーが実施主体の主要作物品目となっている。また、機械導入による効果は充分表れていると評価する。 一方で、令和4年8月3日の大雨による畑冠水の被害により収穫量が減少した。令和5年度は早生品種と晩成品種の両方を出荷できるように品種の導入や栽培体制を構築し、販売単価を向上させよう指導していく。	R5評価		

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																スマート農業推進枠 導入・定着の取組 の実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係 数	価格補 正後の 実績	事後評価の検証方 法(※定量的な核 証ができるこ と。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	評価
					現状				目標				実績				事業実 施前年 度	目標年度												
					在 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	単価(販売単価) 単位	生産コスト 単位	在 度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	単価(販売単価) 単位	生産コスト 単位	在 度	面積 単位			生産量又は 出荷量 単位	単価(販売単価) 単位		生産コスト 単位								
鶴岡市農 業再生協 議会	16	柳引 下山浜	きゅうり	・集出荷施設及びパイプハウスの整備により作付面積の 拡大を図る。 ・実生土耕栽培システム等の導入により収穫量の増加や 品質の向上を図る。 ・高品質産地としての信頼確立を目指す。	総販売額の 10%以上の増 加 【153.0%の 増加】	R1	37.484 千円	1.78 ha	136.816 kg	274 円/ kg	R4	94.836 千円	2.67 ha	344.658 kg	275 円/ kg	R4	43.426 千円	2.51 ha	172.343 kg	252 円/ kg	219	224	0.978	42.475 千円	8.7%	JA精算通知書等 による販売額の核 証を行う。	当初の計画では、側枝 を誘引する農を1本残る 従来の栽培方法と農工 兼栽培システムの組み合 わせで収穫の回転数をよ げ、自給収量を達成でき る見込みであったが、 きゅうり団地内で害虫で あるアブラムシが発生し 、想定より収量が伸び なかった。 ・今後は、きゅうり団地 の一斉防除・県農業技術 普及課等と連携した巡回 指導を行うとともに、側 枝の誘引数を減らすこと で受光態勢を改善する など、適切な栽培管理 に取り組み、収量の増加 を目指す。	害虫であるアブラムシ の発生により収量が伸び なかったため、一斉防除 の実施を支援するととも に、地域協議会等と連携 して適切な栽培方法及び 栽培管理を指導すること により目標達成を図る。	R5評価	
酒田市農 業再生協 議会	11	広野	ねぎ	農業機械導入による生産量の増加と、安定的な生産 体制の確立	販売額の 10%以上の 増加 【123.9%の 増加】	R29	331千円/10a	9.4 ha	ねぎ 125,816 kg	ねぎ 247 円/ kg	R4	741千円 /10a	11.9 ha	ねぎ 360,000 kg	ねぎ 245 円/ kg	R4	440千円 /10a	4.27 ha	ねぎ 62,653 kg	306 円/ kg	328	319	1.028	462千円 /10a	32.0%	販売伝票の実合に よる販売額の核証 を行う。	令和3年度までは計画 とおり10ha以上の面積で 栽培していたものの、主 力生産者の体調不良及び 隣接農圃により栽培面積 ・収穫量が減少し目標 に達しなかった。 ・県道田農業技術普及課 等と連携しながら研修等 を開展し、栽培技術の向 上を図るとともに新たな 主力生産者となり得る人 材の発掘・育成を行い、 労働力の確保及び面積の 拡大を図り、ひいては収 量・販売価格の向上を目 指す。	主力生産者の体調不良 及び隣接農圃により栽培 面積・収穫量が減少し目 標に達しなかった。 関係機関と連携して適 切な栽培管理の指導を 行っていくと共に、新 たな主力生産者の発掘・ 育成等に向けた研修等の 開催や、県の研修等によ る機械導入等の支援を 行っていく。	R5評価	

(3) 契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上とすること

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	評価			
					現状			目標			実績													
					年度	面積 単位	総生産量又は 総出荷量 単位	契約取引量 単位	年度	面積 単位	総生産量又は 総出荷量 単位	契約取引量 単位	年度	面積 単位	総生産量又は 総出荷量 単位	契約取引量 単位								
大江町地 域農業再 生協議会	6	本郷、萩 野、小見	水稲	高性能コンバインのリース導入で適期刈取りができる 取組体制を組み、品質の安定化で契約栽培の拡大を図 る。	R1	契約栽培の 割合 0%	53.1 ha	308.7 t	0.0 t	R4	契約栽培の 割合50.0%	53.1 ha	308.7 t	154.4 t	R4	契約栽培の 割合 54.6%	52.1 ha	316.2 t	172.70 t	契約書、出荷帳票 で検証する。	109.2%	作付面積は目標値に届い ていないものの、出荷量お よび契約率は目標値を達成 している。実施主体は独自 に乾燥機を更新したり、集 出荷施設の建設に着手する など、今後も営農規模を拡 大する予定であり、面積目 標についても今後数年の間 に達成すると見込まれる。	契約栽培面積を拡大し、 目標値を達成している。 目標面積は未達成である ため、作付面積拡大に向け て指導した。	R5評価

(5) 農産物輸出の取組（直近年の輸出実績がある場合の輸出处荷量又は出荷額の10%以上の増加、新規の取組の場合又は直近年の輸出実績がない場合の総出荷額に占める輸出处荷額の割合5%以上又は輸出处荷量10トン以上）

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標															事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	備考
					現状					目標					実績										
					年度	面積 単位	総出荷量又は 総出荷額 単位	輸出处荷量 又は出荷額 単位	年度	面積 単位	総出荷量又は 総出荷額 単位	輸出处荷量 又は出荷額 単位	年度	面積 単位	総出荷量又は 総出荷額 単位	輸出处荷量 又は出荷額 単位	年度	面積 単位	総出荷量又は 総出荷額 単位						
該当なし																									

(6) 労働生産性の10%以上の向上

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	現況				目標				実績				スマート導入・定着の取組の実施内容	地域(県又は国を含む)の価格(販売年度)		修正係数	価格修正後の実績	事後評価の検証方法は従来型な検証方法と異なること。	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	評価	備考							
					年度	面積		生産量又は出荷量		単価(販売単価)	労働時間	年度	面積		生産量又は出荷量			単価(販売単価)	労働時間									年度	面積		生産量又は出荷量		単価(販売単価)	労働時間
						ha	ha	t	t				円/kg	h	ha	ha													t	t	円/kg	h		
真室川市農業再生協議会	5	小田島	水稲	①高性能な無人ヘリを導入し、播種・除草・防除の作業を効率化し、労務負担の軽減を図る。 ②育苗施設の活用や播種の増加、刈取りの共同化等、作業効率の向上を目指す。作業効率の10%以上の増加を目指す。	R1	5,185	120.0	738	210	30,756	5,710	125.0	775	213	29,450	R4	4,526	120	739.2	178	29,064	15,407	13,009	1.184	5,359	33.1%	R5評価	スマート農業推進	無人ヘリを導入することにより、防除に関する労働時間は概ね目標達成に近い数値になっている。 また、育苗の労働時間が目標未達であったことが全体の目標達成に寄った。育苗に関する労働時間は0.13時間/10a増加。 このことは、育苗の自動化により利用施設で育苗を行っている大規模農家の面積が増えていることが原因である。 このことから①育苗施設を利用することで気象変動に強い良質な苗を手に入れやすくなることを積極的にPRする。また、単位面積当たりの作業量をPRすることにより育苗に関する労働時間の削減を図る。					
大井町地域農業再生協議会	5	三郎	水稲	パイプハウスで共同育苗を行い、労働生産性を向上させる。	R1	5,487	14.3	66,240	210	2,535	6,109	14.3	66,240	210	2,277	R4	3,407	6.98	36,030	183	1,935	15,716	13,861	1.134	3,864	-260.9%	R5評価	施設野菜の生産額とセット	導入したパイプハウスで共同育苗を行い育苗時の作業時間削減に努めているものの、公共工事により農地が分散し、圃場作業の作業効率が低下した。このため、一部農家の機械の不具合により作業時間が増加した結果、単位面積当たりの労働時間が増えた(現状値+1.3h/10a)し、労働生産性向上の目標未達となった。 令和4年度は公共工事の影響により、令和5年度から作業面積は回復する予定である。そのため、作業条件の良い圃場を活用することにより作業効率を高め、労働生産性を向上させるべく取り組む。					
真室川町農業再生協議会	10	八敷代	水稲	①高性能機械を導入し、作業効率を高めることで労働時間を削減する。 ②水稲の生産圃場の圃地化を図り作業効率を高める。 ③作業体系を見直し、作業効率を高めることで労働時間を削減する。	R1	5,911	34.0	169,200	11,847	5,650	6,531	34.0	169,200	11,847	5,113	R4	4,080	33.6	124,899	7,546	3,850	15,716	13,861	1.134	4,627	-207.1%	R5評価		トラクターのリース導入により、耕整地作業時間の短縮(目標値-0.58h/10a)等、単位面積当たりの労働時間の短縮(目標値-3.4h/10a)が図られたものの、収穫の低下(目標値-125.9t/10a)と品質低下による単位面積当たりの労働時間の増加(目標値+1.3h/10a)により、労働生産性向上の目標未達となった。 今後、より効率的な作業体系を構築し、労働時間の削減を図っていく。 結果として、令和5年度の作業効率を高めることで労働生産性を向上させるべく取り組む。					
真室川市農業再生協議会	12	春木	水稲	①ドローンを導入し、播種・防除を行う。 ②水稲の生産圃場の圃地化を図り作業効率を高める。 ③ドローンを導入し、作業効率を高めることで労働時間を削減する。	R1	7,773	22.7	118,200	13,916	3,527	8,556	27.5	143,022	13,916	3,877	R4	4,220	19.7	88,564	8,739	3,057	15,716	13,861	1.134	4,785	-381.6%	R5評価		ドローンの導入により防除等の作業時間短縮(現状値-0.02h/10a)が図られているものの、基礎整備を実施した8haについて44畝の不安定が原因、播種期を過ぎた田圃となった。石が多くストローラッシャーを使った後山土を耕すことで基礎整備を行ったが、田圃の土壌状態が悪く、イネの根が深く張れず、日照不足や高温の影響もあり、収穫量は令和4年の現状値(520kg/10a)から450kg/10aと低下し、品質も低下したため単位面積も13,916円/60kgから8,739円/60kgと低下し、目標達成に至らなかった。 今後は播種の田圃を行うとともに、田圃の状況に合わせ、肥料・堆肥等の投入を行うなど、土づくりによる圃場の物理性の改善や、地力の向上を図り、気象変動等に強い稲づくりに努めていく。 また、適宜農業技術普及隊からの助言を受ける等、関係機関と連携しながら、協議会として土壌改善方法等について指導・支援を行っていく。					
真室川町農業再生協議会	13	釜淵	大豆	①大豆の生産圃場の圃地化を図り作業効率を高める。 ②高性能機械を導入し、作業効率を高める労働時間を削減する。	R1	533	17.2	8,550	3,819	1,021	592	18.8	9,405	3,829	1,013	R4	777	18.8	12,930	3,734	1,036	10,346	9,474	1.092	848	533.9%	R5評価		機械導入による作業効率の向上及び大豆生産量により目標を達成している。					
南陽市農業再生協議会	5	梨畑地区	水稲	高性能農業機械(5条刈りコンバイン)の導入・高付加価値型農業による規模拡大	R1	4,369	19.2	63,660	15,017	3,647	4,632	20.0	66,500	15,047	3,600	R4	4,106	20.2	57,660	11,297	2,644	15,716	13,861	1.134	4,656	109.1%	R5評価		令和4年度の大被害による収穫量の減少を受け、高付加価値型農業の導入による労働時間の削減効果が顕著であり目標を達成した。今後も収穫量確保や効率的な作業体系について指導していく。					
鶴岡市農業再生協議会	14	鶴岡	水稲大豆	・新トラクタ等の高性能機械のリース導入により、作業効率の向上を図る。 ・特定作業受託等による生産規模拡大と農地集約を行うと共に、畦畔除去により作業効率の向上を図る。	R1	14,521	73.6	257,230	284	8,101	15,996	83.7	299,441	288	7,170	R4	21,726	84.08	290,856	338	6,181	水稲 261 大豆 148	水稲 231 大豆 162	水稲 1,130 大豆 0.914	23,348	23,348	598.4%	R5評価		経営規模の拡大に伴う作業効率化により、労働生産性を向上させることができており、目標を達成した。				

